

荒川区民総幸福度（GAH）レポート

～荒川区の目指す6つの都市像に対応する分野および各指標の重要度と実感度～



「荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査」（以下「区民アンケート調査」とします。）では、区民の皆さんが幸せを実感するには、どのような区の取り組みが必要なのかを考えるヒントにするため、アンケートの回答者が、健康や子育てなど、どういった分野を重要に思っているかを調べています。

具体的には、健康・福祉、子育て・教育、産業、環境、文化、安全・安心の各分野のなかで、各指標に対応した事柄のうち、回答者の幸せにとって重要なものを1位から3位まで選ぶ設問、また、上記の6分野のなかで、回答者の幸せにとって重要な分野はどれか、1位から6位まで選ぶ設問があります。

今回のレポートでは、主に2つの分析結果を紹介しています。第一の分析結果は、回答者の幸せにとってその分野や指標がどれくらい重要か（以下「重要度」とします。）および、回答者がその分野やその指標に関してどれくらい実感を抱いているか（以下「実感度」とします。）についての関係を男女別や年代別など、属性別に示しました。重要度と実感度の関係を散布図で示し、これらの図によって、回答者の重要度が高い分野や指標は、実感度が高いのかといった点や、回答者の属性が異なると幸せにとって重要な分野や指標が異なるのかといった点が分かります。

第二の分析結果は、この重要度と実感度の4つの組み合わせ（具体的には、「重要度および実感度ともに高い」、「重要度が低く、実感度が高い」、「重要度が高く、実感度が低い」、「重要度および実感度ともに低い」）を用いた分析です。各分野の各指標に関して、この性別・この年代の場合は、どの組み合わせなのかを表にし、掲載しました。また、性別・年代のほかにも、特徴的な違いが出る属性についても表を掲載しています。これらの表から、属性によって幸せにとっての重要な指標や現在の実感に違いがあることを考察できます。

目次

I	幸せにとって重要な分野.....	4
	(1) 回答者全体における各分野の重要度と実感度の関係.....	4
	(2) 男女別における各分野の重要度と実感度の関係.....	5
	(3) 年代別における各分野の重要度と実感度の関係.....	6
	(4) 回答者の子どもの年齢別における各分野の重要度と実感度の関係.....	7
II	幸せにとって重要な指標.....	9
	(1) 健康・福祉分野.....	10
	(2) 子育て・教育分野.....	14
	(3) 産業分野.....	16
	(4) 環境分野.....	19
	(5) 文化分野.....	21
	(6) 安全・安心分野.....	23
III	まとめ.....	25

荒川区自治総合研究所および荒川区では、荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハピネス：GAH）に関する取り組みを進めており、区民の皆さんの幸福度を測るための「荒川区民総幸福度（GAH）指標」を作成しました。荒川区民総幸福度（GAH）指標は、「健康・福祉」「子育て・教育」「産業」「環境」「文化」「安全・安心」という荒川区が目指す6つの都市像に対応した6つの分野ごとの指標と、これらを総合する「幸福実感」指標の、全部で46の項目で構成されています（図表1）。これらの指標を用いて、区では、平成25年度から毎年1回ずつ、区民アンケート調査を実施しています（質問文は図表2参照のこと）。

荒川区自治総合研究所には、区民の皆さんから「GAHにもっと興味を持ちたい。」「アンケート調査の結果を知りたい。」といった声もたくさん寄せられています。そのなかで、当研究所では、これらの調査の結果を広く皆さんにお知らせするため「荒川区民総幸福度（GAH）レポート」を発行しています。

今回の第4回のレポートでは、これまでのGAHレポート¹ではあまり取り上げていなかった、回答者の幸福にとって重要な分野もしくは重要な指標（重要度）に注目し、その分野もしくは指標の重要度と実感度の関係を男女別や年代別など、属性別のデータから紹介します。

◎区民アンケート調査²の概要

- 調査期間：平成25年度から毎年1回実施
- 調査対象：満18歳以上（平成27年度まで満20歳以上）の荒川区民4,000人（無作為抽出）
- 回収方法：郵送または電子申請

◎各指標の実感度の平均値について

各指標の実感度の平均値は、平成25年度から平成29年度までの5年間のデータ（9,337件）を用いて算出しています。具体的には、各指標の「0：わからない」と無回答を除く1（まったく感じない）～5（大いに感じる）の回答者数に、それぞれの点数をかけたものの総和をとり、回答者数で割った値を、該当指標の実感度の平均値としています。なお、当初は区民アンケート調査結果の時系列の推移に対して、その変化の原因を探っていくアプローチを想定していましたが、各指標の実感度の経年変化が予想以上に小さかったため、5年間のデータを同一群のデータとして扱っています。

◎重要度と実感度の値について

重要度と実感度の値は、小数点以下第3位を四捨五入して算出しています。

¹ 過去のGAHレポートにつきましては、荒川区自治総合研究所のホームページをご覧ください。

https://rilac.or.jp/?page_id=501

² 区民アンケート調査の調査票や集計結果は荒川区ホームページで公表されています。

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a001/kouhou/kouchou/gahanke-to.html>

図表 1 荒川区民総幸福度（GAH）指標の体系

		分野	上位指標	下位指標	
荒川区民総幸福度（GAH）指標	幸福実感	健康・福祉	健康の実感	体の健康	運動の実施
					健康的な食生活
					体の休息
				心の健康	つながり★
					自分の役割
					心の安らぎ
				健康環境	医療の充実
					福祉の充実
				子育て・教育	子どもの成長の実感 ³
		「生きる力」の習得			
		家族関係	親子コミュニケーション		
			家族の理解・協力		
		子育て教育環境	子育て・教育環境の充実		
			地域の子育てへの理解・協力 望む子育てができる環境の充実		
		産業	生活のゆとり	仕事	生活の安定★
					ワーク・ライフ・バランス
					仕事のやりがい
				地域経済	まちの産業
					買い物の利便性
					まちの魅力
		環境	生活環境の充実	利便性・ユニバーサルデザイン	施設のバリアフリー
					心のバリアフリー
					交通利便性
				快適性	まちなみの良さ
周辺環境の快適さ★					
持続可能性	持続可能性				
文化	充実した余暇・文化活動、 地域の人とのふれあいの 実感	余暇活動	興味・関心事への取組		
			生涯学習環境の充実		
		地域文化	地域への愛着		
			地域の人との交流の充実		
			地域に頼れる人がいる実感		
			文化的寛容性		
安全・安心	安全・安心の実感	犯罪	防犯性★		
		事故	交通安全性★		
			生活安全性★		
		災害	個人の備え		
			災害時の絆・助け合い		
			防災性		

区民アンケート調査では、それぞれの指標についての実感を1（まったく感じない）から5（大いに感じる）までの5段階でお答えいただきました。

※「上位指標」とは、各分野の総合的な実感度を把握するための指標です。

※「下位指標」とは、各分野のより具体的な実感度を把握するための指標です。

※★印の指標は、質問文で「不安を感じますか」「危険を感じますか」など、負の実感を尋ねています。実感度を算出する際には、負の実感を持つ人の実感度が低くなるように換算しています。

³ 子育て・教育分野は、18歳未満の子どもがいるの方のみを対象とした設問（指標）です。

図表2 荒川区民総幸福度（GAH）指標の質問文一覧

分野	No.	指標	質問文
	1	幸福実感	あなたは幸せだと感じますか？
健康・福祉	2	運動の実施	体を動かしたり運動したりすることができていると思いますか？
	3	健康的な食生活	健康的な食生活を送ることができていると感じますか？
	4	体の休息	体を休めることができていると感じますか？
	5	つながり★	孤立感や孤独感を感じますか？
	6	自分の役割	家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があると感じますか？
	7	心の安らぎ	心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？
	8	医療の充実	お住まいの地域に、安心してかかることができる医療機関(病院や薬局など)が充実していると感じますか？
	9	福祉の充実	お住まいの地域では、高齢者や障がい者への福祉が充実していると感じますか？
	10	健康の実感	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか？
	子育て・教育	11	規則正しい生活習慣
12		「生きる力」の習得	お子さんが、社会で生活していく上で必要な知識や技能、社会性、体力などを身につけていると思いますか？
13		親子コミュニケーション	親子の間でコミュニケーションがとれていると感じますか？
14		家族の理解・協力	あなたのご家族には、子育てに関する理解や協力があると感じますか？
15		子育て・教育環境の充実	お住まいの地域における子育て・教育に関する事業・サービス・施設など(提供しているのが、民間か行政かを問わず)が充実していると思いますか？
16		地域の子育てへの理解・協力	お住まいの地域に、子育て家庭に対して理解し、協力する雰囲気があると感じますか？
17		望む子育てができる環境の充実	自分が望む子育てができるような環境があると感じますか？
18		子どもの成長の実感	お子さんが健やかに成長していると感じますか？
産業(生活・産業・経済)	19	生活の安定★	生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか？
	20	ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活とのバランスが取れていると感じますか？
	21	仕事のやりがい	仕事に、やりがいや充実感を感じますか？
	22	まちの産業	荒川区の企業(お店や町工場など)は元気で活力があると感じますか？
	23	買い物の利便性	お住まいの地域での買い物 convenient だと思いますか？
	24	まちの魅力	荒川区は、区外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思いますか？
	25	生活のゆとり	経済的な不安がなく、買い物などに不便のない生活を送ることができていると感じますか？
環境(生活環境)	26	施設のバリアフリー	お住まいの地域の商業施設や公共施設が、バリアフリーの面から、だれもが使いやすいと思いますか？
	27	心のバリアフリー	お住まいの地域には、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？
	28	交通利便性	お住まいの地域は交通の便が良いと感じますか？
	29	まちなみの良さ	お住まいの地域のまちなみ(景観・緑など)は良いと感じますか？
	30	周辺環境の快適さ★	お住まいの地域で、生活する上での不快さを感じますか？
	31	持続可能性	あなたは、節電やごみの減量など、地球環境に配慮した生活をしていると思いますか？
	32	生活環境の充実	お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？
文化(文化・コミュニティ)	33	興味・関心事への取組	興味・関心のあることに取り組むことができていると感じますか？
	34	生涯学習環境の充実	生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じますか？
	35	地域への愛着	荒川区の文化や特色に愛着や誇りを感じますか？
	36	地域のひととの交流の充実	お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていると感じますか？
	37	地域に頼れる人がいる実感	お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？
	38	文化的寛容性	お住まいの地域には、文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気があると感じますか？
	39	充実した余暇・文化活動、地域のひととのふれあいの実感	充実した余暇・文化活動や地域の方とのふれあいのある生活が送れていると感じますか？
安全・安心	40	防犯性★	お住まいの地域で、犯罪への不安を感じますか？
	41	交通安全性★	お住まいの地域で、自動車や自転車などの交通事故の危険を感じますか？
	42	生活安全性★	家庭や学校・職場などで、転倒、転落、落下物などの危険を感じますか？
	43	個人の備え	災害(地震・火災・風水害)に対する備えを十分にしている安心感がありますか？
	44	災害時の絆・助け合い	災害時に近隣のひとと助け合う関係があると感じますか？
	45	防災性	お住まいの地域は災害に強いと感じますか？
	46	安全・安心の実感	お住まいの地域は犯罪や事故、災害などの点から総合して安全だと感じますか？

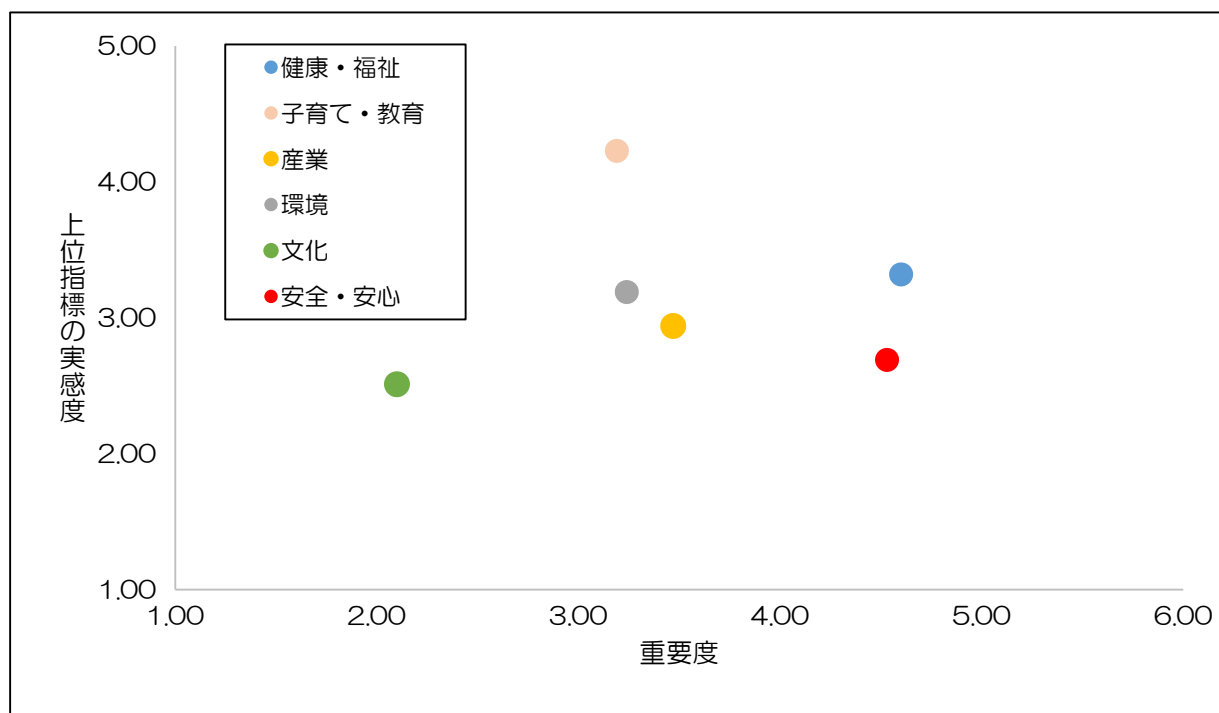
I 幸せにとって重要な分野

この章では、回答者の幸せにとって重要な分野の傾向を紹介します。健康・福祉、子育て・教育、産業、環境、文化、安全・安心の6分野のなかで、回答者の幸せにとって重要な分野はどれか、1位から6位まで選ぶ設問について、その回答を点数化し、分野の「重要度」を算出しました⁴。また、各分野の上位指標の実感度の平均値を算出し、それを各分野の実感度としました。これらのデータをもとに、各分野の重要度と実感度の関係をみてみましょう。

(1) 回答者全体における各分野の重要度と実感度の関係

まずは、性別、年代などに関わらず、回答者全体における各分野の重要度と実感度との関係を図表3に示しました。図表3から、健康・福祉分野（青色）の重要度が4点台（4.60）で、6分野の中で最も高く、子育て・教育分野（ピンク色）については、上位指標の実感度が6分野の中で最も高いことがわかります。また、文化分野（緑色）は、重要度、上位指標の実感度ともに6分野の中で最も低くなりました。さらに、安全・安心分野（赤色）では、重要度が健康・福祉分野に次いで高く、上位指標の実感度は2点台（2.69）であり、文化分野に次いで低くなりました。この結果から、6分野の中では、健康・福祉や安全・安心が幸せにとって重要と感じる人が多いけれど、特に地域の安全・安心についてはそれを実感できている人が少ないということがわかります。

図表3 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（回答者全体）

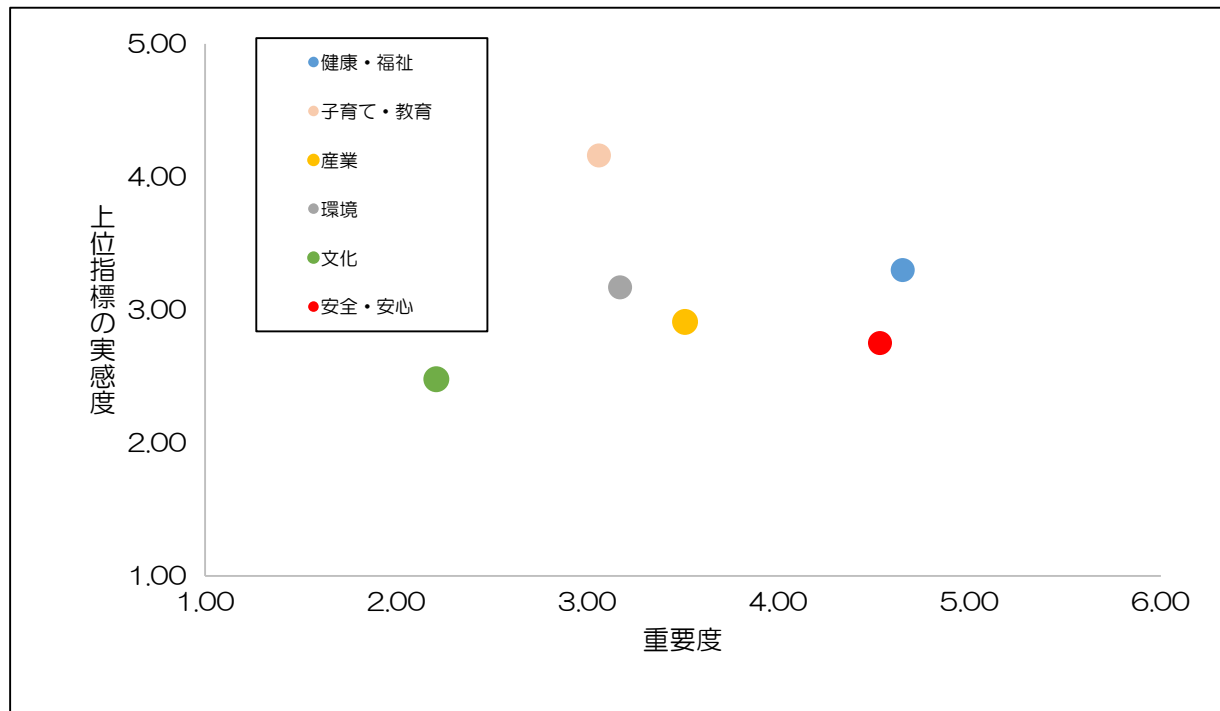


⁴ 幸せにとって重要な分野の第1位に選んだ回答を6点、第2位に選んだ回答を5点、第3位に選んだ回答を4点、第4位に選んだ回答を3点、第5位に選んだ回答を2点、第6位に選んだ回答を1点とし、それぞれの順位に該当する回答者数を掛け、その総和を有効回答者総数で割った値を重要度としました。なお、実感度を問う設問とは異なり、18歳未満の子どもがいる・いないに関わらず、回答者は子育て・教育分野を第1位から第6位までの中で選ぶことができます。

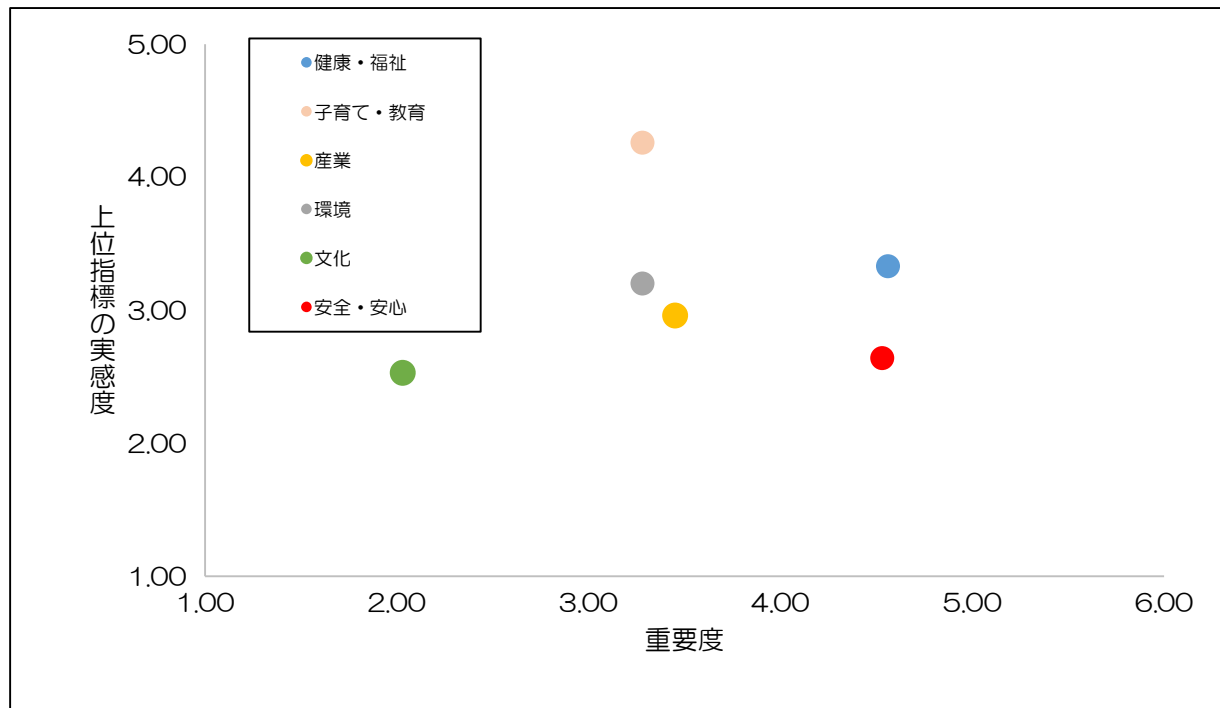
(2) 男女別における各分野の重要度と実感度の関係

次に、回答者全体ではなく、属性別にみてみましょう。図表 4、5 は男性あるいは女性における各分野の重要度と実感度を表しています。これをみると、各分野の分布は男女であまり異なっていないようにみえます。

図表 4 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（男性）



図表 5 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（女性）

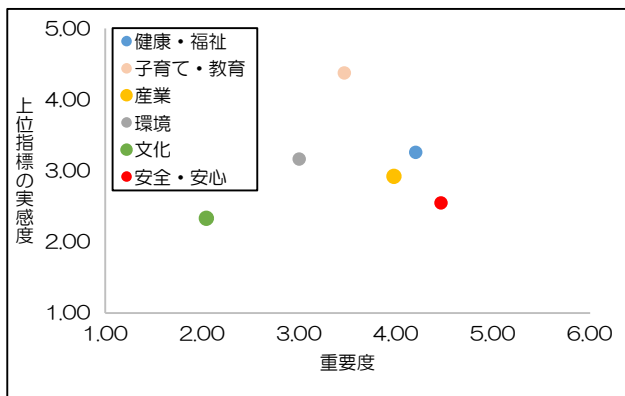


(3) 年代別における各分野の重要度と実感度の関係

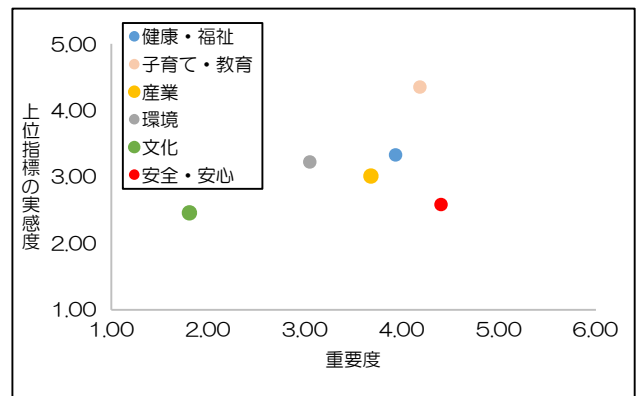
つづいて、年代別でみてみましょう（図表 6～12）。各分野の実感度は、年代にかかわらず、高い順に子育て・教育、健康・福祉、環境、産業、安全・安心、文化となっています。一方、重要度は年代別で傾向に差がありました。18～29 歳（図表 6）では、安全・安心分野の重要度が6分野の中で最も高く、次いで、高い順に、健康・福祉分野、産業分野となっています。30 代（図表 7）では、安全・安心分野の重要度が最も高いですが、次いで高いのが子育て・教育分野となりました。40 代（図表 8）では、18～29 歳（図表 6）と似たような分布となりました。50 代以降（図表 9～12）では、子育て・教育分野の重要度が低くなり、値の高い順から6分野中5番目でした。60 代（図表 10）では、健康・福祉分野の重要度が、6分野の中で最も高くなり、70 代（図表 11）、80 歳以上（図表 12）でも、健康・福祉分野の重要度は最も高く、2 番目に高い安全・安心分野の重要度との差が開いていくようにみえます。また、産業分野の重要度は年代が上がるごとに低くなっています。

年代別の重要度と実感度の傾向をまとめます。健康・福祉分野の重要度は、年代が上がると、重要度が高くなりました。子育て・教育分野および産業分野は、年代が上がると、重要度が低くなりました。また、安全・安心分野は、いずれの年代でも重要度が高く、実感度が低くなりました。

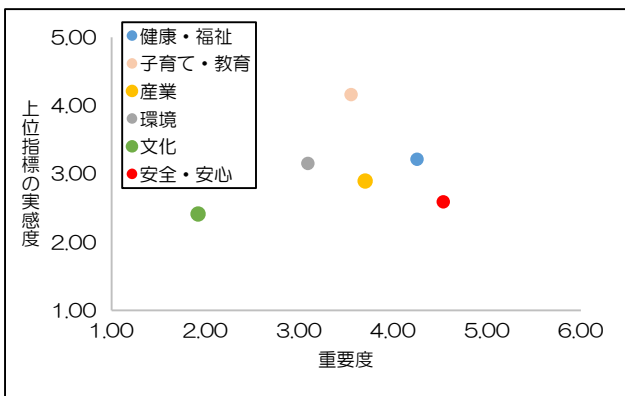
図表 6 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（18～29 歳）



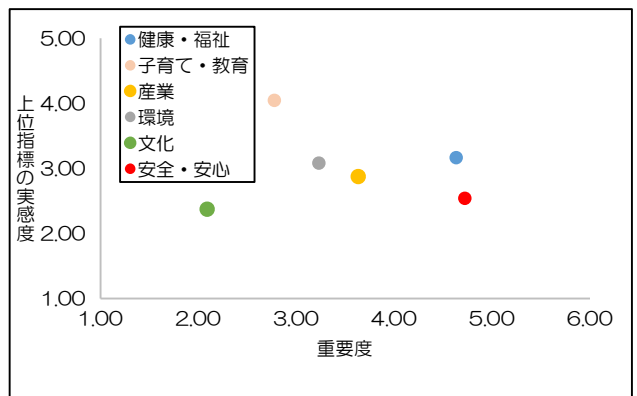
図表 7 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（30 代）



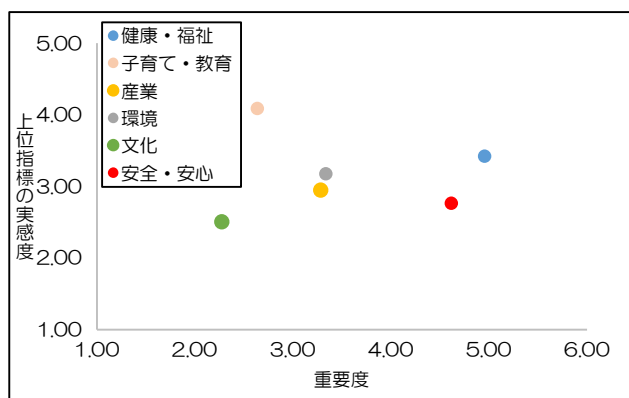
図表 8 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（40 代）



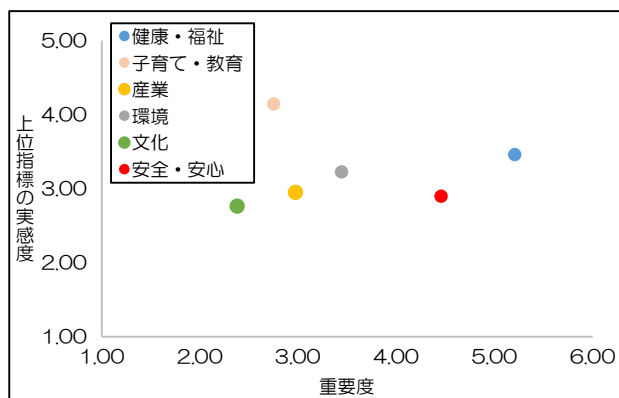
図表 9 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（50 代）



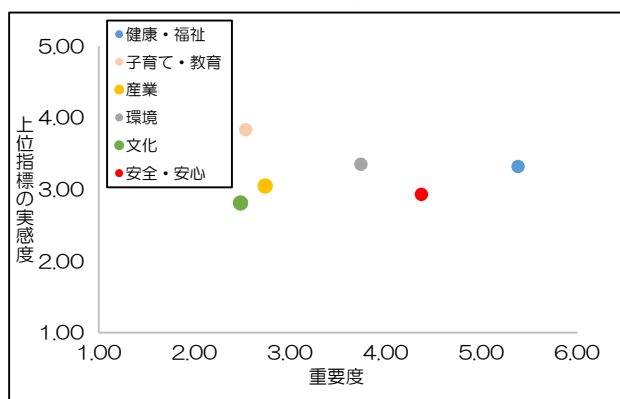
図表 10 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（60代）



図表 11 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（70代）



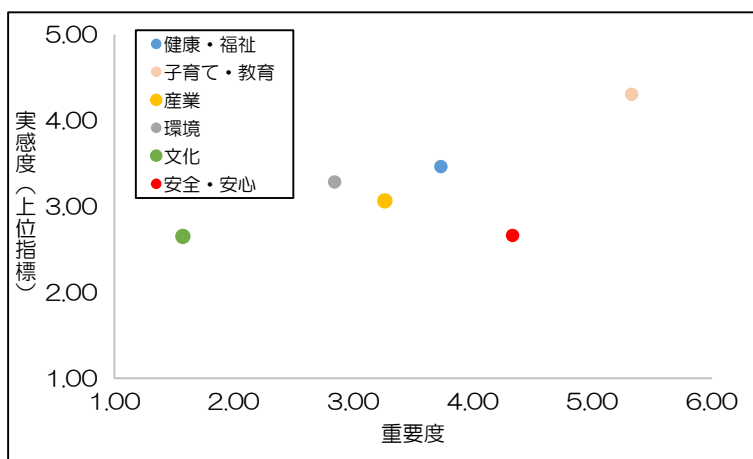
図表 12 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（80歳以上）



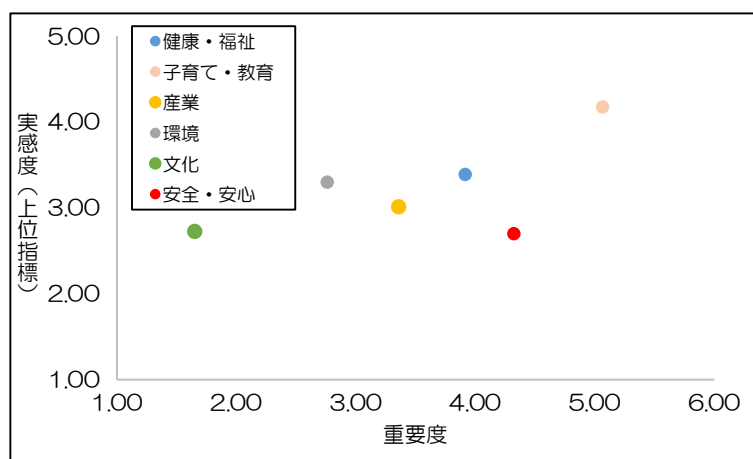
（４）回答者の子どもの年齢別における各分野の重要度と実感度の関係

これまで、男女別や年代別でみてきましたが、回答者の子どもの年齢別ではどうでしょうか。とくに、ここでは子育て・教育分野をみていきましょう。0～5歳、または6～11歳の子どもがいる回答者は、子育て・教育分野の重要度が5点台（5.32と5.06）と、6分野の中で最も高く、実感度も4点台（4.31と4.17）と高くなりました（図表13、14）。12～17歳の子どもがいる回答者は、子育て・教育分野の重要度が4点台（4.12）と6分野中2番目の値であり、0～5歳、または6～11歳の子どもがいる回答者の子育て・教育分野の重要度よりも低い値となりました（図表15）。このように、比較的年齢が低い子どもがいる回答者の子育て・教育分野の重要度が高い傾向にあることが分かりました。

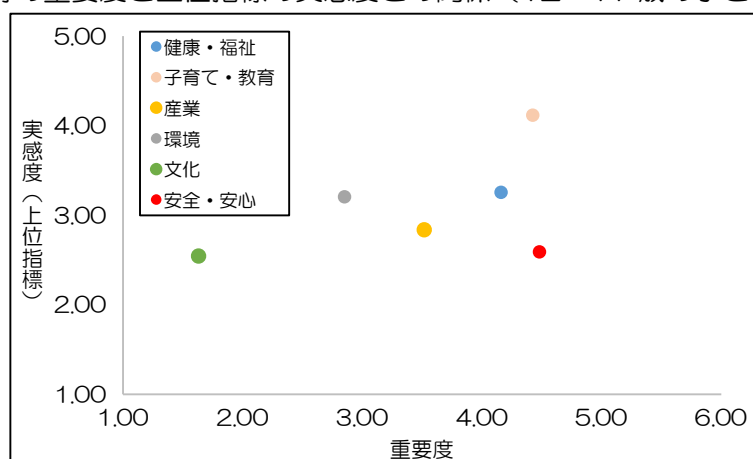
図表 13 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（0～5 歳の子どもがいる回答者）



図表 14 各分野の重要度と上位指標の実感度の関係（6～11 歳の子どもがいる回答者）



図表 15 各分野の重要度と上位指標の実感度との関係（12～17 歳の子どもがいる回答者）



Ⅱ 幸せにとって重要な指標

区民アンケート調査では、分野の重要度だけでなく、各分野内で、回答者の幸せにとって重要な指標を問う設問があります。本章では、各分野での指標の重要度と実感度の関係をみていきましょう。

区民アンケート調査は、健康・福祉、子育て・教育、産業、環境、文化、安全・安心の各分野のなかで、回答者の幸せにとって重要なものを1位から3位まで選ぶ設問があります。例えば、健康・福祉分野であれば、「体を動かしたり運動したりできること（運動の実施）」、「健康的な食生活を送れること（健康的な食生活）」、「体を休めることができること（体の休息）」、「孤立感や孤独感がないこと（つながり）」、「自分の役割があること（自分の役割）」、「心が安らぐ時間を持っていること（心の安らぎ）」、「医療機関（病院や薬局など）が地域に充実していること（医療の充実）」、「高齢者や障がい者への福祉が地域に充実していること（福祉の充実）」の8つの下位指標に対応する事柄の中から、回答者の幸せにとって重要なものを、1位から3位まで3つ選ぶということです⁵。これらの回答から、各分野内の指標それぞれの重要度を属性別に算出し⁶、さらに、それらの指標の実感度の平均値との関係を調べました。

その結果を図表3～15のようなグラフで示す際に、重要度の平均値と実感度の平均値⁷の2つの軸によって、図表16のように、「重要度、実感度がともに高い（A）」、「重要度は低く、実感度が高い（B）」、「重要度が高く、実感度が低い（C）」、「重要度、実感度がともに低い（D）」の4つの領域に分け、各指標が次の4つのどの領域に分布するのか整理しました。これによって、回答者がどの指標にどれくらい期待を寄せているか、どれくらい実感しているかが分かりやすくなることで、次のページの分析例のように、区の政策・施策に関する判断のヒントが得やすくなります⁸。

⁵ 実際の設問では、指標名は記載されていません。本文では分かりやすくするために、指標名を括弧内に記しています。なお、46指標の中から3つ選ぶのではなく、各分野内で3つ選びます。

⁶ 属性別に、各分野の中で幸せにとって重要な指標（下位指標の中から選びます）の第1位に選んだ回答を3点、第2位に選んだ回答を2点、第3位に選んだ回答を1点として、それぞれの順位に該当する回答者数を掛け、その総和を有効回答者総数で割った値を重要度としました。なお、この設問における子育て・教育分野内の指標に対応する事柄については、実感度を問う設問と同様、18歳未満の子どもがいる回答者のみが第1位から第3位まで選べます。

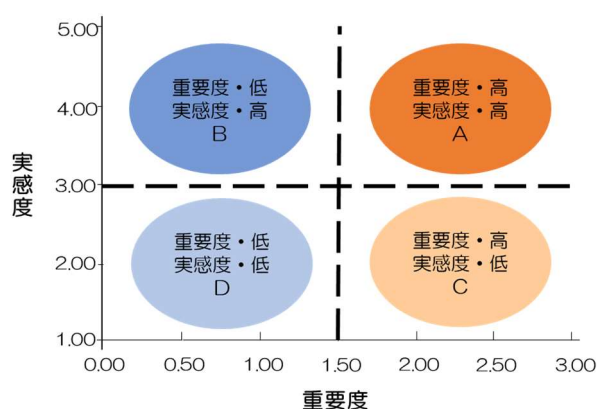
⁷ 重要度の平均値は、各属性において、各分野の下位指標の重要度の和を指標数で割って算出しています。実感度の平均値は、各属性において、各分野の下位指標の、「無回答」や「わからない」という回答を除いたすべての回答の総和を求め、その回答数で割った値としています。

⁸ あくまで重要度および実感度の平均値の軸で、機械的に4つの領域に分けているため、各指標の分布の状況から判断していく必要があります。なお、分布図は参考資料をご参照下さい。

(分析例) 各領域に分布された指標に関連する政策・施策⁹に関して、次のような分析ができます。

- ・「重要度高・実感度高 (A)」に分布された指標に関連する政策・施策については、重きを置きつつ、実感度の高さを維持していく必要があるだろう。
- ・「重要度低・実感度高 (B)」に分布された指標に関連する政策・施策については、引き続き実感度の高さを維持していく必要があるだろう。
- ・「重要度高・実感度低 (C)」に分布された指標に関連する政策・施策については、重点的に実感度を高められるように改善する必要があるだろう。
- ・「重要度低・実感度低 (D)」に分布された指標に関連する政策・施策については、引き続き実感度が高められるように改善する必要があるだろう。

図表 16 重要度と実感度の関係図 (イメージ)



点線はそれぞれ、各指標ごとの重要度と実感度の平均値を表しています。

以降は、各分野で整理した結果をまとめました。本レポートでは、男女別、年代別の結果を掲載していますが、それ以外の属性についても一部紹介します。分布の詳細は「GAH レポート vol.4 参考資料」¹⁰に記載していますので、ご覧ください。

なお、以降の表記の方法については、分かりやすくするために、例えば、各分野で、ある指標の重要度が高く、実感度が低い領域 (C) に分布した場合、「重要度が高く、実感度が低いという結果でした」と記します。

(1) 健康・福祉分野

健康・福祉分野は、前述のとおり、重要度が 4 点台で、6 分野の中で最も高くなりました (図表 3 参照)。この分野における、性別、年代を問わない、回答者全体での各下位指標の重要度と実感度の分布図を図表 17 に示しました。また、男女別および年代別の各下位指標の重要度と実感度の関係について、図表 18 に整理しました。全体的には、「運動の実施」、「健康的な食生活」、「自分の役割」、

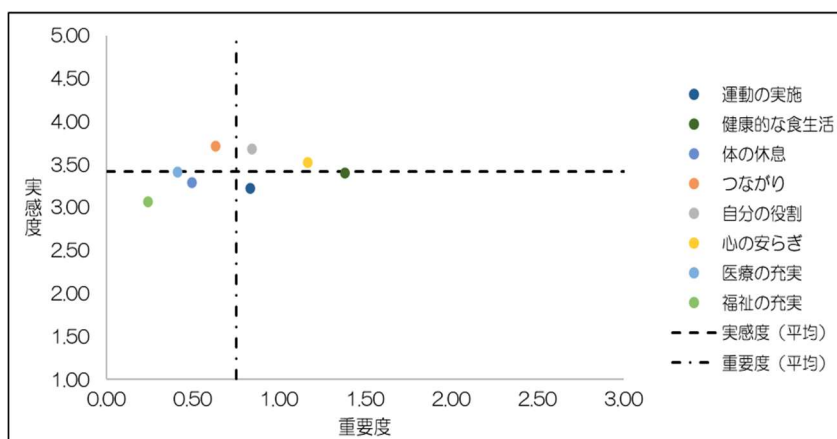
⁹ 荒川区基本計画では、荒川区基本構想に掲げた将来像である「幸福実感都市あらかわ」を実現させるために、平成 29 年度からの 10 年間における区の方針を政策、施策の体系に基づいて示しています。健康・福祉、子育て・教育、産業、環境、文化、安全・安心の 6 つの分野における各政策および各施策の成果の指標として、図表 1 の各指標が活用されています。詳細は下記をご参照ください。

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/gyouseihyouka/index.html>

¹⁰ https://rilac.or.jp/wordpress/?page_id=501

「心の安らぎ」といった、個人の身体的または精神的な状態に関わる指標の重要度が高い傾向にあり、精神的な健康に関する指標（「つながり」、「自分の役割」、「心の安らぎ」）の実感度が高い傾向にあることがわかりました。ただ、指標によっては、男女別、年代別で重要度や実感度の傾向が異なっているものがありました。指標ごとに傾向をみていきましょう。

図表 17 健康・福祉分野における各下位指標の重要度と実感度（回答者全体）



図表 18 男女別、年代別でみた各下位指標の重要度と実感度の分布のまとめ（健康・福祉分野）

指標	回答者全体	男性							女性						
		18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
運動の実施	C	D	D	D	D	C	A	C	D	D	D	D	C	C	C
健康的な食生活	C	C	C	C	C	A	A	A	C	C	C	C	A	A	A
体の休息	D	C	D	D	D	B	B	B	C	D	D	D	D	B	B
つながり	B	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	B	B	B	D
自分の役割	A	B	A	A	A	A	D	D	B	A	A	A	A	A	D
心の安らぎ	A	A	A	A	A	A	B	B	A	A	A	A	A	B	B
医療の充実	D	B	D	D	D	D	B	A	B	B	D	D	D	B	B
福祉の充実	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D

A 重要度・実感度がともに高い
B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い
D 重要度・実感度がともに低い

- 「体を動かしたり運動したりできること（運動の実施）」については、回答者全体でみると、重要度が高く、実感度が低いです。男女別および年代別でみると、70代男性では、重要度と実感度がともに高いですが、それ以外の属性では、性別や年代を問わず、実感度が低く、50代以下は、重要度も低い傾向にあることがわかりました。また、60代以上は、男女ともに重要度が高いです。このように、年代が上がると、重要度が高い傾向にあることがわかりました。
- 「健康的な食生活を送れること（健康的な食生活）」については、回答者全体でみると、重要度が高く、実感度が低いです。男女別および年代別でみると、性別や年代を問わず、重要度が高く、実感度に関しては、18歳から50代までは低く、60代以上は高いです。このように、年代が上がると、実感度が高い傾向にあることがわかりました。

- 「体を休めることができること（体の休息）」については、回答者全体でみると、重要度と実感度がともに低いです。男女別および年代別でみると、18～29歳では、男女ともに、重要度が高く、実感度が低いです。また、30代から50代では、男女ともに、重要度と実感度のいずれも低いです。70代と80歳以上については、男女ともに、重要度は低いものの、実感度は高いです。60代については、男女ともに重要度が低く、実感度に関しては、男性で高く、女性では低いです。このように、18～29歳を除いて、重要度は低いです。年代が上がると、実感度は高くなる傾向にあることが分かりました。また、男女別・年代別以外に、回答の傾向が違った属性のデータを紹介すると、回答者の1日あたりの平均就業時間¹¹が12時間以上の場合は、他の就業時間と同様、実感度は低い傾向にありましたが、重要度は、他の就業時間と比べて高いです（図表19）。また、回答者の職業別¹²でみると、学生の場合、実感度は低い傾向にありましたが、他の職業と比べて、重要度は高いです（図表20）。

図表19 「体を休めることができること（体の休息）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の1日の就業時間別）

指標	回答者全体	1日の平均就業時間					
		4時間未満	4-5時間	6-7時間	8-9時間	10-11時間	12時間以上
体の休息	D	D	D	D	D	D	C

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「孤立感や孤独感がないこと（つながり）」については、回答者全体でみると、重要度が低く、実感度が高く、男性については、年代を問わず、回答者全体と同じ傾向になりました。女性については、18歳から70代では、実感度が高く、30代を除き、重要度が低いです。80歳以上の女性は、重要度と実感度いずれも低いです。このように、全体的には、重要度は低い傾向にあることが分かりました。また、回答者の世帯構成別¹³でみたところ、一人暮らしの場合は、他の世帯構成と比べて、実感度が低いです（図表21）。一方で、回答者の子どもの年齢別¹⁴でみると、0～5歳の子どもがいる回答者では、6歳以上の子どものいる回答者や子どもがいない回答者と比べて、重要度が高く、実感度も高くなりました（図表22）。

¹¹ 区民アンケート調査において、「あなたのご職業は次のうちどれですか。（○は1つだけ）」という質問で、「自営業主」、「正規の職員、従業員」、「会社などの役員」、「労働者派遣事業所の派遣社員」、「家族従業者」、「パート、アルバイトなど」の6つのうち、いずれかに該当する方に対して、1日あたりの平均就業時間を尋ねています。

¹² 「自営業主」とは、個人で事業を営んでいる人（農業などを含む）や自由業の人を指します。「労働者派遣事業所の派遣社員」とは、労働者派遣法に基づいて派遣されている人を指します。「家族従業者」とは、商店など自営業主の家族で、その自営業に従事している人を指します。「パート、アルバイトなど」には、契約社員、嘱託、非常勤職員なども含まれます。また、「その他」には、公務員、看護師、保育士、芸術家の方などが含まれていました。

¹³ 「その他」には、兄弟、もしくは姉妹との同居、友人とのルームシェアなどが含まれていました。

¹⁴ 区民アンケート調査では、同居や別居にかかわらず、該当する年齢の子どもがいるかどうかを尋ねています。なお、「子どもがいない」には、本質問への無回答者も含まれています。

図表 20 「体を休めることができること（体の休息）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の職業別）

指標	回答者全体	回答者の職業									
		自営業主	正規の職員、従業員	会社などの役員	労働者派遣事業所の派遣職員	家族従業者	パート、アルバイトなど	学生	専業主婦、専業主夫	無職	その他
体の休息	D	D	D	D	D	D	D	C	D	B	B

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

図表 21 「孤立感や孤独感がないこと（つながり）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の世帯構成別）

指標	回答者全体	世帯構成				
		一人暮らし	夫婦のみ	二世世代家族（親・子）	三世世代家族（親・子・孫）	その他
つながり	B	D	B	B	B	B

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

図表 22 「孤立感や孤独感がないこと（つながり）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の子どもの年齢別）

指標	回答者全体	回答者の子どもの年齢				
		子どもがいない	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18歳以上
つながり	B	B	A	B	B	B

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「自分の役割があること（自分の役割）」については、回答者全体で見ると、重要度と実感度がともに高いです。18～29歳では、男女ともに、重要度が低く、実感度が高いです。30代から60代では、男女ともに重要度と実感度が高いですが、80歳以上では、男女ともに重要度と実感度が低いです。70代では、男性の場合、重要度と実感度いずれも低く、女性では、いずれも高いです。このように、年代が若いと、重要度と実感度いずれも高く、逆に年代が上がると、重要度も実感度も低い傾向にあるということが分かりました。また、回答者の世帯構成別にみると、一人暮らしの場合は、他の世帯構成と比べて、重要度と実感度がともに低いです（図表 23）。

図表 23 「自分の役割があること（自分の役割）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の世帯構成別）

指標	回答者全体	世帯構成				
		一人暮らし	夫婦のみ	二世世代家族（親・子）	三世世代家族（親・子・孫）	その他
自分の役割	A	D	A	A	A	A

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「心が安らぐ時間を持てていること（心の安らぎ）」については、回答者全体で見ると、重要度と実感度がともに高いです。男女ともに、いずれの年代でも実感度は高いですが、18歳から60代では重要度が高く、70代以上では重要度が低いです。このように、高齢層に比べると、比較的若い年代において、重要度が高い傾向にあることが分かりました。また、回答者の1日あたりの平均就業時間別にみると、就業時間が12時間以上の場合は、他の就業時間と比べて、重要度が高く、実感度が低いです（図表24）。

図表24 「心が安らぐ時間を持てていること（心の安らぎ）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の1日あたりの就業時間別）

指標	回答者全体	1日の平均就業時間					
		4時間未満	4-5時間	6-7時間	8-9時間	10-11時間	12時間以上
心の安らぎ	A	A	A	A	A	A	C

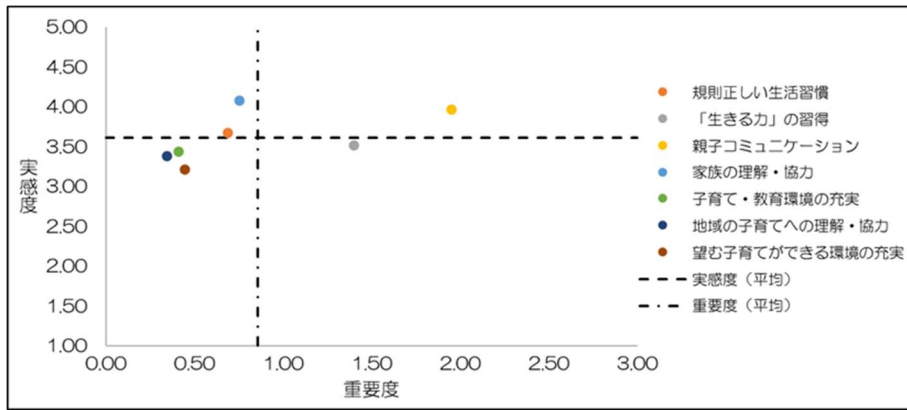
A	重要度・実感度がともに高い	B	重要度が低く、実感度が高い
C	重要度が高く、実感度が低い	D	重要度・実感度がともに低い

- 「医療機関（病院や薬局など）が地域に充実していること（医療の充実）」については、回答者全体で見ると、重要度と実感度のいずれも低いです。男性の場合、18歳から70代では、重要度が低く、18～29歳と70代では、実感度が高いです。また、80歳以上の男性は、重要度と実感度がともに高いです。女性の場合、どの年代でも重要度が低く、18～29歳、30代、70代以上では、実感度が高いです。このように、比較的若い年齢層と高齢層では、実感度が高い傾向にあることが分かりました。
- 「高齢者や障がい者への福祉が地域に充実していること（福祉の充実）」については、性別および年代を問わず、重要度と実感度がともに低いです。

（2）子育て・教育分野

子育て・教育分野は、上位指標の実感度が4点台で、6分野の中で最も高いです（図表3参照）。この分野における、性別、年代を問わない、回答者全体での各下位指標の重要度と実感度の分布図を図表25に示しました。また、男女別および年代別の各下位指標の重要度と実感度の関係について、図表26に整理しました。親子との関わりに関する指標（「親子コミュニケーション」）については、重要度と実感度がともに高いのに対して、子育ての環境に関する指標（「子育て・教育環境の充実」、「地域の子育てへの理解・協力」、「望む子育てができる環境の充実」）については、重要度と実感度がともに低い傾向にあることが分かりました。以下、子育て・教育分野における各指標について、重要度と実感度の傾向を述べていきます。

図表 25 子育て・教育分野における各下位指標の重要度と実感度（回答者全体）



図表 26 男女別、年代別でみた各下位指標の重要度と実感度の分布のまとめ（子育て・教育分野）

指標	回答者全体	男性							女性						
		18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
規則正しい生活習慣	B	C	B	D	C	D	C	-	B	B	B	C	B	C	-
「生きる力」の習得	C	A	C	C	C	C	A	-	D	C	C	C	A	A	-
親子コミュニケーション	A	A	A	A	A	A	A	-	A	A	A	A	A	A	-
家族の理解・協力	B	B	B	B	B	B	B	-	A	A	B	B	B	A	-
子育て・教育環境の充実	D	B	D	D	D	D	D	-	D	D	D	D	D	D	-
地域の子育てへの理解・協力	D	D	D	D	D	D	D	-	D	D	D	D	D	B	-
望む子育てができる環境の充実	D	D	D	D	D	D	D	-	D	D	D	D	D	D	-

※80歳以上は回答者数が少ないため、分類していません。

A	重要度・実感度がともに高い	B	重要度が低く、実感度が高い
C	重要度が高く、実感度が低い	D	重要度・実感度がともに低い

- 「子どもが規則正しい生活習慣を身に付けていること（規則正しい生活習慣）」については、回答者全体でみると、重要度が低く、実感度が高いですが、男女別や年代別で傾向が異なりました。18~29歳男性、そして男女ともに50代と70代では、重要度が高く、実感度が低いです。それに対して、30代男性、18歳から40代女性、60代女性については、重要度が低く、実感度が高いです。40代男性と60代男性では、重要度と実感度がともに低いです。
- 「子どもが社会で生活していく上で必要な知識・技能・社会性・体力などを身に付けていること（「生きる力」の習得）」については、回答者全体でみると、重要度が高く、実感度が低いです。男性では、年代を問わず、重要度が高いですが、18~29歳と70代では実感度も高いです。女性では、18歳から50代で、実感度が低く、18~29歳では、重要度も低いのにに対して、30代から50代では、重要度は高いです。60代以上は、重要度と実感度がともに高くなっていました。回答者全体の傾向とは別に、男女別、年代別でみると、重要度と実感度の傾向は異なっていることが分かりました。
- 「親子のコミュニケーションがとれていること（親子コミュニケーション）」については、性別や年代を問わず、重要度と実感度が高いです。
- 「子育てに関する家族の理解・協力があること（家族の理解・協力）」については、回答者全体でみると、重要度が低く、実感度が高いです。男性についても、年代を問わず、重要度が低く、実感度が高いです。女性については、年代を問わず、実感度が高いですが、18~29歳、30代、

70代では重要度が高いのに対し、40代から60代では重要度が低いです。また、回答者の子どもの年齢別にみると、0～5歳の子どもがいる回答者では、実感度だけでなく、重要度も高いです（図表27）。

図表27 「子育てに関する家族の理解・協力があること（家族の理解・協力）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の子どもの年齢別）

指標	回答者全体	回答者の子どもの年齢		
		0-5歳	6-11歳	12-17歳
家族の理解・協力	B	A	B	B

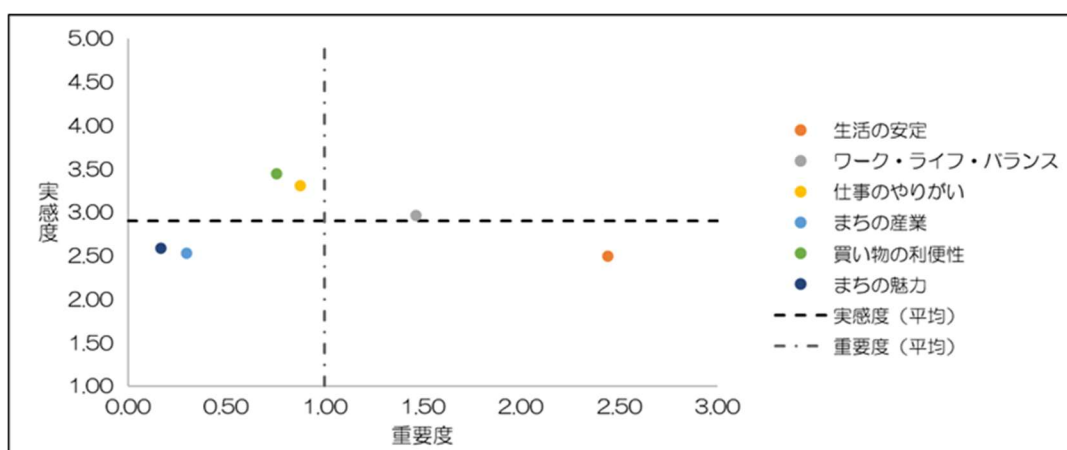
A 重要度・実感度がともに高い	B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い	D 重要度・実感度がともに低い

- 「子育て・教育に関する事業・サービス・施設などが地域に充実していること（子育て・教育環境の充実）」については、18～29歳男性では、重要度が低く、実感度が高いですが、それを除いては、性別と年代を問わず、重要度と実感度がともに低いです。
- 「子育て家庭に対して理解・協力する雰囲気があること（地域の子育てへの理解・協力）」については、70代女性では、重要度が低く、実感度が高いですが、それを除いては、性別と年代を問わず、重要度と実感度がともに低いです。
- 「自分が望む子育てができるような環境があること（望む子育てができる環境の充実）」については、性別と年代を問わず、重要度と実感度がともに低いです。

（3）産業分野

産業分野における、性別、年代を問わない、回答者全体での各下位指標の重要度と実感度の分布図を図表28に示しました。また、男女別および年代別の各下位指標の重要度と実感度の関係について、図表29に整理しました。「生活の安定」については、重要度が高く、実感度が低くなり、「ワーク・ライフ・バランス」は重要度と実感度がともに高いです。これに対して、「仕事のやりがい」と「買い物の利便性」は重要度が低く、実感度が高いです。また、地域の経済に関わる指標（「まちの産業」、「まちの魅力」）については、重要度と実感度のいずれも低いです。

図表28 産業分野における各下位指標の重要度と実感度（回答者全体）



図表 29 男女別、年代別でみた各下位指標の重要度と実感度の分布のまとめ（産業分野）

指標	回答者全体	男性							女性						
		18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
生活の安定	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
ワーク・ライフ・バランス	A	A	C	C	A	A	A	D	C	C	A	A	A	A	D
仕事のやりがい	B	A	A	A	A	B	B	B	A	B	B	B	B	B	B
まちの産業	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
買い物の利便性	B	B	B	B	B	B	A	A	B	B	B	B	B	A	A
まちの魅力	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「生活を送るために必要な収入があること（生活の安定）」については、どの属性でも概ね重要度が高いですが、実感度が低いです。回答者の世帯年収別で見ると、1,000万円以上の場合、重要度だけでなく、実感度も高いです（図表 30）。

図表 30 「生活を送るために必要な収入があること（生活の安定）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の世帯年収別）

指標	回答者全体	世帯年収						
		100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 400万円未満	400万円以上 600万円未満	600万円以上 800万円未満	800万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上
生活の安定	C	C	C	C	C	C	C	A

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「仕事と生活とのバランスが取れていること（ワーク・ライフ・バランス）」については、回答者全体で見ると、重要度と実感度がともに高いです。男女を問わず、18歳から70代までは、重要度が高いですが、30代男性、40代男性、18~29歳女性、30代女性については、実感度が低くなっていました。また、80歳以上では、男性と女性いずれも、重要度と実感度がともに低いです。このように、比較的若い年代において、重要度が高く、実感度は低い傾向にあることが分かりました。

また、世帯構成が一人暮らしの場合（図表 31）、1日あたりの平均就業時間が10~11時間および12時間以上と、比較的就業時間が長い場合（図表 32）、回答者に18歳未満の子どもにいる場合（図表 33）、重要度が高く、実感度が低いです。

図表 31 「仕事と生活とのバランスが取れていること（ワーク・ライフ・バランス）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の世帯構成別）

指標	回答者全体	世帯構成				
		一人暮らし	夫婦のみ	二世世代家族 (親・子)	三世世代家族 (親・子・孫)	その他
ワーク・ライフ・バランス	A	C	A	A	A	C

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

図表 32 「仕事と生活とのバランスが取れていること（ワーク・ライフ・バランス）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の1日あたりの平均就業時間別）

指標	回答者全体	1日の平均就業時間					
		4時間未満	4-5時間	6-7時間	8-9時間	10-11時間	12時間以上
ワーク・ライフ・バランス	A	A	A	A	A	C	C

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

図表 33 「仕事と生活とのバランスが取れていること（ワーク・ライフ・バランス）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の子どもの年齢別）

指標	回答者全体	回答者の子どもの年齢				
		子どもがいない	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18歳以上
ワーク・ライフ・バランス	A	A	C	C	C	A

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「仕事にやりがいや充実感があること（仕事のやりがい）」については、回答者全体をみると、重要度が低く、実感度が高いです。男女ともに、年代を問わず、実感度は高いですが、男性では、18歳から50代で、女性では、18~29歳で、重要度も高くなり、他の属性では、重要度が低いです。

また、1日あたりの平均就業時間が8時間以上（図表 34）、または、世帯年収が800万円以上の場合（図表 35）、つまり、比較的就業時間が長い、または、収入が多い場合、実感度だけでなく、重要度も高いです。

図表 34 「仕事にやりがいや充実感があること（仕事のやりがい）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の1日あたりの平均就業時間別）

指標	回答者全体	1日の平均就業時間					
		4時間未満	4-5時間	6-7時間	8-9時間	10-11時間	12時間以上
仕事のやりがい	B	B	B	B	A	A	A

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

図表 35 「仕事にやりがいや充実感があること（仕事のやりがい）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の世帯年収別）

指標	回答者全体	世帯年収						
		100万円未満	100万円以上 200万円未満	200万円以上 400万円未満	400万円以上 600万円未満	600万円以上 800万円未満	800万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上
仕事のやりがい	B	B	B	B	B	B	A	A

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

●「まちの企業（お店や町工場など）が元気で活力があること（まちの産業）」および「まちに区外から人が訪れたい魅力があること（まちの魅力）」については、性別や年代を問わず、重要度と実感性がともに低いです。

●「地域での買い物が便利なこと（買い物の利便性）」については、回答者全体をみると、重要度が低く、実感性が高いです。また男女問わず、どの年代でも実感性が高く、70代・80歳以上では重要度も高いです。高齢者では重要度が高い傾向にあるようです。

また、回答者の職業が専業主婦、専業主夫の場合、実感性だけでなく、重要度も高いです（図表 36）。

図表 36 「地域での買い物が便利なこと（買い物の利便性）」についての重要度と実感性の分布のまとめ（回答者の職業別）

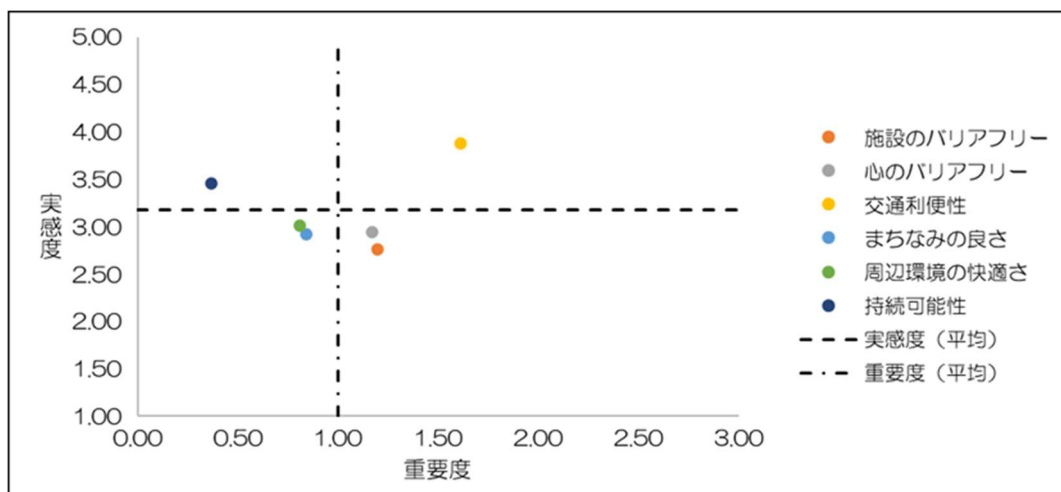
指標	回答者全体	回答者の職業									
		自営業主	正規の職員、従業員	会社などの役員	労働者派遣事業所の派遣職員	家族従業者	パート、アルバイトなど	学生	専業主婦、専業主夫	無職	その他
買い物の利便性	B	B	B	B	B	B	B	B	A	B	A

A	重要度・実感性がともに高い	B	重要度が低く、実感性が高い
C	重要度が高く、実感性が低い	D	重要度・実感性がともに低い

（4）環境分野

環境分野における、性別、年代を問わない、回答者全体での各下位指標の重要度と実感性の分布図を図表 37 に示しました。また、男女別および年代別の各下位指標の重要度と実感性の関係について、図表 38 に整理しました。環境分野の指標については、回答者全体でみたときと、男女別、年代別など、属性別でみたときとで、重要度や実感性の傾向は概ね異なりませんでした。全体的には、「施設のバリアフリー」、「心のバリアフリー」、「交通利便性」といった利便性に関する指標が他の指標と比べると、重要度が高い傾向にありました。

図表 37 環境分野における各下位指標の重要度と実感性（回答者全体）



図表 38 男女別、年代別でみた各下位指標の重要度と実感度の分布のまとめ（環境分野）

指標	回答者全体	男性							女性						
		18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
施設のバリアフリー	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C
心のバリアフリー	C	C	C	C	C	C	D	C	C	C	C	C	C	C	C
交通利便性	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
まちなみの良さ	D	D	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
周辺環境の快適さ	D	B	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
持続可能性	B	D	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B

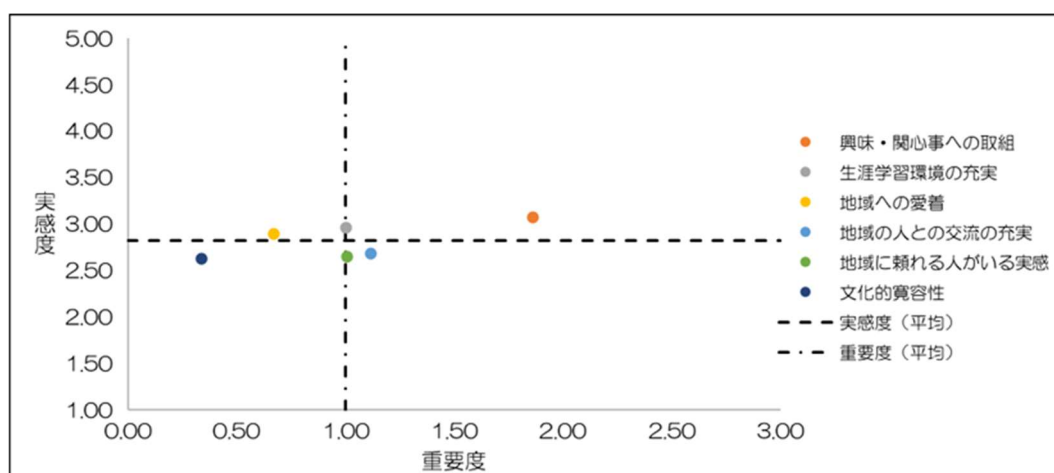
A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「地域の商業施設や公共施設が、だれでも使いやすいこと（施設のバリアフリー）」については、性別と年代を問わず、重要度が高いものの、実感度が低いです。
- 「困った人に声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があること（心のバリアフリー）」については、70代の男性では、重要度と実感度がともに低いです。それ以外では性別や年代を問わず、重要度が高いものの、実感度が低いです。
- 「地域の交通の便が良いこと（交通利便性）」については、性別と年代を問わず、重要度と実感度がともに高いです。
- 「地域のまちなみ（景観・緑など）が良いこと（まちなみの良さ）」については、30代の男性では、重要度が高く、実感度が低いです。それ以外では性別や年代を問わず、重要度と実感度がともに低いです。
- 「地域に放置自転車やポイ捨てなどによる不快さがないこと（周辺環境の快適さ）」については、18~29歳の男性では、重要度が低いものの、実感度が高くなりました。それ以外では性別や年代を問わず、重要度と実感度がともに低いです。
- 「節電やごみの減量など地球環境に配慮した生活をする（持続可能性）」については、18~29歳の男性では、重要度と実感度がともに低いです。それ以外では性別や年代を問わず、重要度が低いものの、実感度が高いです。

(5) 文化分野

文化分野における、性別、年代を問わない、回答者全体での各下位指標の重要度と実感度の分布図を図表 39 に示しました。また、男女別および年代別の各下位指標の重要度と実感度の関係について、図表 40 に整理しました。「興味・関心事への取組」といった余暇活動に関する指標については、重要度と実感度がともに高い傾向にあります。また、指標によっては、男女別および年代別に傾向が異なる指標がありました。

図表 39 文化分野における各下位指標の重要度と実感度（回答者全体）



図表 40 男女別、年代別でみた各下位指標の重要度と実感度の分布のまとめ（文化分野）

指標	回答者全体	男性							女性						
		18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
興味・関心事への取組	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	C
生涯学習環境の充実	A	A	A	A	B	A	B	B	B	B	B	A	A	B	B
地域への愛着	B	D	D	B	B	B	B	B	D	D	D	B	B	B	B
地域の人との交流の充実	C	D	D	D	C	C	C	A	D	D	C	C	C	C	A
地域に頼れる人がいる実感	C	D	D	D	D	D	D	C	C	C	C	C	C	C	A
文化的寛容性	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「興味・関心のあることに取り組みことができていること（興味・関心事への取組）」については、80歳以上の女性では、重要度が高く、実感度が低いです。それ以外では性別や年代を問わず、重要度と実感度がともに高いです。また、12歳未満の子どもがいる回答者の場合、重要度は高く、実感度は低いです（図表 41）。

図表 41 「興味・関心のあることに取り組みことができていること（興味・関心事への取組）」についての重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の子どもの年齢別）

指標	回答者全体	回答者の子どもの年齢				
		子どもがいない	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18歳以上
興味・関心事への取組	A	A	C	C	A	A

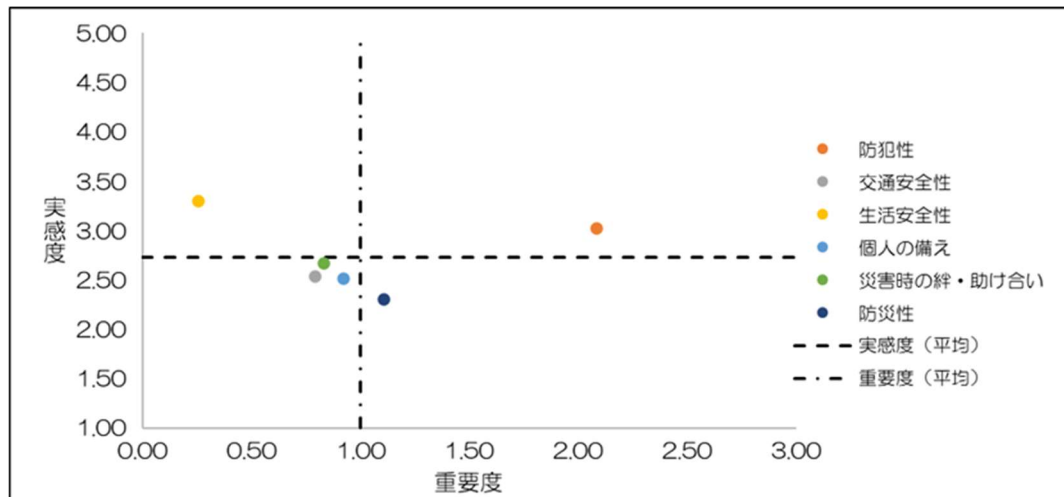
A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「生涯にわたって学習できる環境があること（生涯学習環境の充実）」については、回答者全体でみると、重要度と実感度がともに高いです。男女ともに、年代を問わず、実感度は高いものの、18～29歳男性、30代男性、40代男性、60代男性、50代女性、60代女性では、重要度も高いです。
- 「地域の文化や特色に愛着や誇りを感じる（地域への愛着）」については、回答者全体でみると、重要度が低く、実感度が高いです。男女ともに、年代を問わず、重要度は低いですが、18～29歳男性、30代男性、18～29歳女性、30代女性、40代女性については、実感度も低いです。このように、比較的若い年代で、重要度と実感度が低い傾向にあることが分かります。
- 「地域の人との交流があること（地域の人との交流の充実）」については、回答者全体でみると、重要度が高く、実感度が低いです。男性では、18歳から40代で、重要度と実感度がともに低く、50代から70代で、重要度が高く、実感度が低いです。女性では、18歳から30代で、重要度と実感度がともに低く、40代から70代で、重要度が高く、実感度が低いです。また、男女ともに、80歳以上では、重要度と実感度がともに高いです。このように、比較的若い年代では、重要度と実感度がともに低く、年代が上がると、重要度、実感度が高い傾向にあることが分かります。
- 「地域に頼れる人がいること（地域に頼れる人がいる実感）」については、回答者全体では、重要度が高く、実感度が低くなりました。男性では、18歳から70代では、重要度と実感度がともに低く、80歳以上では重要度が高く、実感度が低いです。女性では、18歳から70代では、重要度が高く、実感度が低く、80歳以上では、重要度と実感度がともに高いです。この指標は、男女で重要度の傾向が異なる指標であることが分かります。
- 「文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気（文化的寛容性）」については、性別と年代を問わず、重要度と実感度がともに低いです。

(6) 安全・安心分野

安全・安心分野における、性別、年代を問わない、回答者全体での各下位指標の重要度と実感度の分布図を図表 42 に示しました。また、男女別および年代別の各下位指標の重要度と実感度の関係について、図表 43 に整理しました。図表 42 から、防犯と防災に関わる指標（「防犯性」、「防災性」）の重要度が高いですが、「防犯性」の実感度は高いのに対して、「防災性」の実感度が低い傾向にあることが分かりました。

図表 42 安全・安心分野における各下位指標の重要度と実感度（回答者全体）



図表 43 男女別、年代別でみた各下位指標の重要度と実感度の分布のまとめ（安全・安心分野）

指標	回答者全体	男性								女性							
		18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	18~29歳	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上		
防犯性	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
交通安全性	D	C	C	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D		
生活安全性	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
個人の備え	D	C	D	D	D	C	D	D	D	D	D	D	C	D	D		
災害時の絆・助け合い	D	D	D	D	D	D	D	B	D	D	D	D	C	A	B		
防災性	C	C	C	C	C	C	D	D	C	C	C	C	C	D	D		

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「犯罪への不安がないこと（防犯性）」については、性別と年代を問わず、重要度と実感度がともに高いです。
- 「交通事故の危険がないこと（交通安全性）」については、18～29歳男性と30代男性については、重要度が高く、実感度が低いですが、それ以外では、重要度と実感度がともに低いです。また、回答者の子どもの年齢別でみると、12歳未満の子どもがいる回答者の場合、重要度が高く、実感度が低いです（図表 44）。

図表 44 「交通事故の危険がないこと（交通安全性）」についての
重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の子どもの年齢別）

指標	回答者 全体	回答者の子どもの年齢				
		子どもが いない	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18歳以上
交通安全性	D	D	C	C	D	D

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「転倒・転落・落下物などの危険がないこと（生活安全性）」については、性別と年代を問わず、重要度が低く、実感度が高いです。
- 「災害に対する備えがあること（個人の備え）」については、18～29歳男性、60代男性、60代女性では、重要度が高く、実感度が低いです。それ以外では、性別と年代を問わず、重要度と実感度がともに低くなりました。また、回答者の職業別にみると、労働者派遣事業所の派遣社員と学生の場合、重要度が高く、実感度が低くなりました（図表 45）。

図表 45 「災害に対する備えがあること（個人の備え）」についての
重要度と実感度の分布のまとめ（回答者の世帯年収別）

指標	回答者 全体	回答者の職業									
		自営業主	正規の職員、 従業員	会社などの 役員	労働者派遣 事業所の 派遣職員	家族従業者	パート、 アルバイト など	学生	専業主婦、 専業主夫	無職	その他
個人の備え	D	D	D	D	C	D	D	C	D	D	D

A 重要度・実感度がともに高い B 重要度が低く、実感度が高い
C 重要度が高く、実感度が低い D 重要度・実感度がともに低い

- 「災害時に近隣の人と助け合う関係があること（災害時の絆・助け合い）」については、回答者全体でみると、重要度と実感度がともに低いです。男性については、どの年代も重要度が低いです。80歳以上の男性は、実感度が高いです。女性については、18歳から50代では、重要度と実感度がともに低く、60代では重要度が高く、実感度が低く、さらに70代では、重要度と実感度がともに高いです。80歳以上の女性では、重要度が低く、実感度が高いです。この指標は、男女で傾向が異なり、女性の場合、年代が上がると、重要度あるいは実感度が高い傾向にあることが分かりました。
- 「地域が災害に強いこと（防災性）」については、回答者全体でみると、重要度が高く、実感度が低いです。男女ともに、年代を問わず、実感度が低く、重要度は18歳から60代では高く、70代と80歳以上では低いです。この指標は、比較的若い年代の重要度が高い傾向にあるということが分かりました。

Ⅲ まとめ

今回のレポートでは、区民アンケートの回答者の幸福にとって重要な分野もしくは指標に注目し、その分野もしくは指標の重要度と実感度の関係を、男女別および年代別でみたデータを紹介してきました。平成 30 年度に当研究所で発行した報告書¹⁵では、今回と同じアンケート調査のデータについて、回答者全体での傾向を示しましたが、本レポートでは、それを属性別にみることで、重要度と実感度の傾向が異なるものがあることを示しました。

各分野について振り返りをしますと、例えば、子育て・教育分野の重要度は、30代をピークとして、年代が上がるとその重要度は下がっていく傾向にあり、逆に、健康・福祉分野は、年代が上がると、重要度が高くなる傾向にあることが分かりました。そして、安全・安心分野は、他の5つの分野のなかでは、比較的重要度が高く、実感度が低い傾向にあることが分かりました。

また、指標でいうと、例えば、文化分野の「地域の人との交流があること（地域の人との交流の充実）」については、比較的若い年代では、重要度と実感度がともに低く、年代が上がると、重要度、実感度が高くなる傾向にあることが分かりました。同じ分野の「地域に頼れる人がいること（地域に頼れる人がいる実感）」については、年代だけでなく、男女で重要度の傾向が異なることが分かりました。男女別や年代別だけでなく、その他の属性でも重要度や実感度の傾向が異なるものもありました。例えば、産業分野の「仕事と生活とのバランスが取れていること（ワーク・ライフ・バランス）」については、世帯構成が一人暮らしの場合や、就業時間が比較的長い場合、回答者に18歳未満の子どもがいる場合に、重要度が高く、実感度が低くなりました。

さらに、環境分野の指標のように、回答者全体でみたときと、属性別にみたときとで、重要度と実感度の傾向があまり変わらない指標があるということも分かりました。

幸せは人それぞれで、同じ5段階評価であっても、その重みは人によって異なります。今回のレポートで取り上げた、回答者の幸せにとっての重要さも人それぞれだと思います。例えば、災害に対する備えや、地球環境に配慮する生活を送ること（持続可能性）などのように、重要度が平均よりも低いという結果が出た指標であっても、自分、家族、友人、地域の人々の将来を考えたときに、重要度を上げていくことが大切かもしれません。

そのように考えると、本レポートで得られた結果は、区民がその重要さを意識している分野に限らず、重要だと思われていないが、幸せのためには不可欠と思われる分野について、「どうすれば、もっと重要性を意識できるのか」、また、「幸福実感向上のためにできることは何か」、考えるヒントになるのではないのでしょうか。

荒川区民総幸福度（GAH）レポートに関わる分析・執筆

荒川区自治総合研究所 研究員 小川 勇人

¹⁵ https://rilac.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2015/08/gah_H30-12.pdf

荒川区民総幸福度（GAH）レポート Vol.4
～荒川区の目指す6つの都市像に対応する分野および各指標の重要度と実感度～

令和3年3月

発行：公益財団法人荒川区自治総合研究所（RILAC）
Research Institute for Local government by Arakawa City

住 所 〒116-0002
東京都荒川区荒川 2-11-1
電話番号 03-3802-4861
ファックス 03-3802-2592
ホームページ <https://www.rilac.or.jp/>